

# 松尾たかし 政策集

---

## 温故知新 第2章

世界に誇れる持続可能なまち「鎌倉」を目指して  
すべては鎌倉市民の幸せのために  
そして鎌倉の未来を担う次世代のために

子育て・教育のまち

いつまでも住み続けたいまち

市民みんなが誇りに思うまち

オープンでコンパクトな市役所

多くの方から『良いまちですね』と言われ、世界各国の方々にも訪れていただける鎌倉。歴史的文化遺産と豊かな自然に恵まれ、唯一無二のまちとして多くの人に愛されてきました。

それでは、人々から愛されているこのまちの未来は明るいもののでしょうか？

私は平成21年11月より鎌倉市長として、数々の課題解決や解決のための地盤づくりに取り組んできました。【これまでの取り組みの詳細は、松尾崇「実績集」をご覧ください】

しかしまだまだ全ての解決には至っていません。次に示していることは鎌倉の抱える課題の一部です。これらの内容を少しでも知って頂き、皆さまと問題意識を共有し解決に繋がりたいと考えています。

<b>財政</b>	少子高齢化の進行に伴い、市民税収は減少傾向にあり、一方社会福祉に必要な費用（扶助費）は増加の一途ととどり、財政は悪化しています。今後予想される人口減少がさらに拍車をかけます。
<b>災害対策</b>	大きな地震が発生した場合、地震の揺れとともに津波により多大な被害を受けることが予測されます。また管理が行き届いていない山林は、台風や集中豪雨の際、倒木やがけ崩れを引き起こします。
<b>ごみ問題</b>	根本的な課題を先送りにしてきたツケが回り、深刻な状況です。
<b>開発</b>	法律よりも厳しい条例の制定や改正によって秩序あるまちづくりに取り組んできましたが、条例では制限できないものや、基準ぎりぎりの隙間を狙った開発により、豊かな緑と調和のとれた街並みが失われつつあります。
<b>公共施設の老朽化</b>	高度成長期の人口増加時代に建設された多くの公共施設が、一斉に老朽化してきています。耐震診断を行いました。多くの施設で今後耐震補強工事や建て替えが急がれる状態です。また、道路や橋なども同じような状況です。
<b>高齢化</b>	鎌倉市の高齢化は顕著であり、外出機会の減少などにより、ご近所づきあいが希薄になるにつれて支援が必要な一人暮らしの高齢者や高齢者だけの家庭いわゆる老々世帯が増えています。
<b>政治への関心</b>	若者の政治に対する関心の低さは、選挙の投票率からも読み取れます。
<b>自殺者</b>	健康の問題や経済生活の問題などが原因により、市内の自殺者は平成22年の28人から平成24年の43人と増加しています。
<b>不登校</b>	小学校・中学校での不登校児童数は、120名を超え、こどもたちの中には、十分に学び、遊ぶ環境の不足や、居場所も足りないという状況が続いています。

皆さまの協力により、多額の費用がかかる事業の見直しや職員人件費を、これまでになく規模で削減し、また市債残高を減少させるなど、市財政の立て直しに一定の成果を出すことができました。また、公共施設白書作成の他、再編計画策定に取り組み、将来の道筋を検討してきました。しかし、鎌倉の未来を考えると、さらに大きな前進が必要です。

鎌倉は、歴史を大切にしながら、これまでも継続的に発展してきました。そこには、つねに新しい社会を想い描き、創り出す気風、そしてそれを受け入れる器の大きさがあったからではないでしょうか。これこそが鎌倉を愛する人々や、長い歴史をもつ風土が永年受け継いできた『草創』の精神です。

先人が作り上げた鎌倉を、世界に誇れるまちへと私たちが磨いていこうではありませんか。未来につながる新しい文化と風土を創造する「鎌倉」へ。

今こそ一丸となって、未来へ突き進みましょう。  
みんなが愛し、次世代へ繋げるまちへ。  
そして、世界に誇る持続可能なまち「鎌倉」へ。  
私、松尾たかしも突き進みます。

松尾 崇



## 子育て・教育のまち

### みんなが子育てをしたいまちに

一人ひとりが生きがいをもって、幸せな生活を送るために、子育て支援制度の充実を目指します。

- 保育園の待機児童を解消します。
- 岡本保育園の建て替えを実施し、その中に、子育て支援センターも併設します。
- 由比ヶ浜の鈴木邸今井邸跡地に、津波避難ビルの機能をもった保育園（民間保育園を予定）を設置します。
- 急患が多いゴールデンウイーク、年末年始には大学病院から小児科医を招聘します。
- 各地域でのこどもたちの居場所づくりを支援します。

### 教育の充実

これからの時代を担うこどもたちは、グローバル社会で力強く生き抜いていくための力をつける教育が必要です。そのため、自分で学び、考え、行動する力をつける教育プログラムの導入や、安全で、開かれた、地域を巻き込んでいくことができる学校経営が望まれます。

具体的には、地域社会全体で学校教育を支える体制を作り、複数・多様な大人が関わることにより、たて・よこ・ななめの人間関係を築くこと、また「教師の負担」を軽減し、先生が本来の教育に集中できる環境を作ることなどです。

また、自分が生まれ育った国や地域に誇りを持つことも重要です。こどもたちが鎌倉の歴史や文化について学ぶ機会を充実し、自分の言葉で語れるようになることを目指します。

- 鎌倉の歴史と文化を学ぶ場を充実させます。鎌倉彫、流鏝馬、能、茶道、禅など、鎌倉に関係が深いものについては、とくに学ぶ機会を拡げます。
- 児童生徒の個性にきめ細かく対応するため、また安全安心な教育環境を整えるため、学校の要望を聞きながら、各種補助指導者の配置時間を拡充します。
- 新たな教育課題への対応と、教職員の指導、助言、相談業務に従事する教育専門指導員を設置します。
- ALT（外国人英語教師）を増員するなど、英語教育を充実します。
- 児童生徒一人ひとりの教育的ニーズの把握に努め、個々に応じた教育が行えるよう、小・中学校への特別支援学級全校設置に今後も継続的に取り組むとともに、専門家などの人的支援の拡充などにより、特別支援教育を充実します。

## いじめへの対応

- いじめへの対応をする学校を地域が支えるしくみ作りや、子どもが本当に相談しやすい環境整備を行うために、「いじめ防止条例（仮称）」を制定します。

## 地域全体で担う人づくり

学校情報の発信を充実させ、家庭や地域との情報共有を一層進めます。さらに「地域に開かれた学校」づくりを、家庭・地域・学校評議員などの理解・協力・支援を受け推進します。また、「地域とともに歩む」学校づくりを進めます。

- 公立小学校を地域の生涯学習の拠点や、多世代交流の拠点とします。
- 稲村ヶ崎小学校で実施している「放課後子ども教室」の拡大を目指します。
- 家庭・学校・地域・医療・福祉などの関係機関が協力し、障がいの有無に関わらず、地域のなかで共に育つことを喜び合える環境づくりをめざします。
- 自分が生まれ育った国や地域に誇りを持つため、「徳育基本条例（仮称）」を制定します。

## 学校給食

- 中学校給食（お弁当との選択制を検討）を導入します。
- 家庭との連携により、児童生徒に食に関する正しい知識と、望ましい生活習慣を身につけさせるため、食育に関する指導を充実します。また、学校における食育の生きた教材となる学校給食の充実を図るため、地場産の食材活用や米飯給食を実施します。



# いつまでも 住み続けたいまち

## 防災・減災対策

- 大地震発生時の津波対策として、避難路などの整備及び避難場所の確保を進めます。
- 各種災害の避難訓練、交通安全教室等を通して、「自分の身は自分で守る」ことができることを育成します。
- コミュニティ・防災・防犯の基本「自分たちの地域は自分たちで守る」ことの共通認識を育てるため、自治会・町内会の自主防災・防犯組織結成を促進するとともに、それらが行う防災防犯活動を支援します。
- 自主防災組織や商店会などには、目印の旗などを持って誘導する『率先避難者』を指定するよう、働きかけます。
- 地域活動の担い手となる、防災に関わる専門家（リーダー）の育成を支援します。
- 災害時における要援護者の支援などに対し、課題を抽出するとともに、訓練を通じて援護体制の確立を図ります。
- 県が指定する急傾斜地崩壊危険区域の指定地区数の拡大を図るとともに、景観に配慮した崩壊防止工事の促進を働きかけます。

## 健康長寿のまち

- 長寿を喜べる、生涯現役社会の実現を目指します。特に、高齢者がいきがい、やりがいをもって、仕事・地域のボランティア活動に関われる環境づくりを目指します。

## 地域福祉

子どもからお年寄りまで年代を問わず触れ合いがある笑顔あふれるまちを目指します。地域全体でお年寄りなどを見守ることで、生涯安心した生活が送れるようにします。

- 在宅での看取りを可能にする医療・介護・地域の連携をはかります。
- 地域福祉体制の一層の充実を図るため、安心して暮らすことができるための相談機能を持った（仮称）地域福祉相談室を、地域住民にとって身近な場所に設置します。

## 障がい者の働く場

- 障がい者が、自らの意思で自分らしく働ける場を増やします。また、住み慣れた地域で働けるよう地元企業や商店に障がい者の雇用の拡大を働きかけます。
- 障がい者の就労を支援するため、ジョブサポーターなどの制度をより充実します。
- 市役所での雇用は、これまで以上に積極的に行います。

## 自殺を止める対策

- 市民の心といのちを守るために、地域と行政が一体となって自殺対策に取り組みます。

## スポーツを楽しむまち

- 深沢地区整備構想の中に総合体育館とグラウンドの整備も位置づけます。

## ごみ問題の解決

- 大量生産、大量消費、大量廃棄ではなく、ごみそのものを発生させない、発生抑制策を進め、リデュース日本一を目指します。発生抑止策としては、家庭ごみの戸別収集・有料化、事業系ごみ手数料の改定、生ごみ処理機の更なる普及などを進めます。
- 将来にわたり安定したごみ処理体制を確保するためには、焼却ごみの減量・資源化とともに、新たな焼却施設の整備が不可欠です。このため、安全で安定したごみ処理が可能となる新たな焼却施設の整備についての基本計画を策定します。

## エネルギー

- 平成 24 年に制定されたエネルギー条例に基づき、平成 25 年度中にエネルギー基本計画を策定します。また、家庭や事業者における省エネルギーや再生エネルギーの導入を促進するとともに効率的なエネルギー利用の促進を図ります。

## 緑地の管理、活用

- 市民・NPO・行政が連携し、緑地の管理のための仕組みづくりを行います。
- 広町や台峯をはじめとした緑地を、子どもが山の中を駆け回って遊んで学べる環境にします。

## 海岸対策

- 海の家『クラブ化』を防ぎ、こどもからお年寄りまでが楽しめる海水浴場を目指して、条例を制定します。



# 市民みんなが 誇りに思うまち

## 景観、緑地保全

- 市独自の風致地区条例の制定を目指します。
- 市街化調整区域における開発規制の強化を目指します。
- 古都法6条地区の指定地拡大により、これまで以上に緑地を保全します。

## 未来のまちづくりに向けて

- JR横須賀線の地下化を実現し、円覚寺境内の分断、若宮大路を跨る状態が解消され、鎌倉駅東西のアクセスも良くなるように取り組みます。地下化の実現に向けて、(仮称)横須賀線地下化促進協議会を発足します。
- 歩いて楽しいまちの実現のため、電線のない、電線の目立たないまちづくり(電線地中化+裏配線化)や、歩道の拡幅・フラット化を進めます。
- 車の流入規制を実施して、歩いて楽しく、人にやさしいまちにします。
- 歴史的遺産と共生するまちづくりを推進します。

## IT企業の誘致、起業の支援

- 野村総合研究所跡地を活用して、地域活性化や雇用の場の創出のために、鎌倉と相性がよく、近年集積が目立っているIT企業を誘致します。また、新技術や高度な知識を軸に社会課題の解決を目指すベンチャー企業の支援を行います。

## 入札改革

- 市が発注する工事などについては、市内事業者の育成を視野に入れながら、可能な限り該当事業者への発注を増やしていきます。このための優先的入札制度へ向けた改革を続けます。また、市内生産の工業製品などの積極的な活用を進めます。

## 商店街の活性化

- 鎌倉プレミアム商品券の発行を、継続して支援します。
- 商店街が「まちの顔」「地域コミュニティの核」「物販・サービスの場」「憩いと楽しみの場」となるよう、地域の特性を活かした商店街づくりを支援します。また、今後の高齢社会の進行を見据えて、高齢者が利用しやすい環境づくりに努めます。

## 地産地消

- 市内で生産される野菜や、水揚げされた魚介類の地産地消に向けた取り組みを推進します。
- 鎌倉ブランドの商標登録された商品の向上およびPR活動に取り組みます。また、鎌倉ブランド認知度の向上のため、さらなる啓発活動を行います。

## 伝統工芸などの保存・継承、事業活動

- 伝統工芸などを保存・継承するため、後継者の育成や資料の保存を図ります。とくに、鎌倉彫の保護・育成を目的とした事業活動の支援、技術伝承を図るための支援を行います。また、伝統工芸の情報発信および展示・発表の機会の拡大について、検討を行います。また、鎌倉の小学生全員が一度は鎌倉彫を制作したことがあり、鎌倉彫の歴史について説明ができるようになるよう取り組みます。
- 流鏝馬の練習場を鎌倉市内に誘致して、子どもの頃から、流鏝馬を身近に感じられる環境を整備します。

## 鎌倉ウェディング

- 鎌倉の景観重要建築物や景勝地で、鎌倉の食材や特産品を使って行う、一生に一度の記念式典（鎌倉ウェディング）の支援をします。地域活性化とともに地域愛の醸成、さらには定住促進にもつながります。ウェディング以外にも、金婚式・銀婚式にも「鎌倉流」を広げていきます。

## ITを活用した地域活性化

- ITを活用した寄付制度の創設により、歳入増を目指します（観光客から〔仮称〕観光協力金を徴収するしくみをつくります）。
- フェイスブックを活用した物販通販サイトを充実することにより、鎌倉の魅力的な商品や技術、サービスを世界中に売りだします。

## 三浦半島地域の活性化

- 三浦半島サミットに参加をして、三浦半島全体の活性化に取り組みます。

## 観光客の方にも愛されるまち

- わかりやすく洗練された案内板（ネットワーク）等を整備します。
- いつでもきれいなトイレを整備します。
- 和服で鎌倉を歩くことを推奨するしくみを作ります。

## 文化芸術の発信

- 扇湖（せんこ）山荘をNPO等と連携した文化芸術の発信拠点として検討を進めます。



# オープンで コンパクトな市役所

## 民間の力を活かす

- サービスの質を向上すると共に、コストについては競争原理を働かせ、市民納得度を高めます。公共サービスの民営化などを検討します。

## 公共施設の再編整備

- 公共施設再編計画基本方針を踏まえ、再編計画を策定し公共施設の統廃合も含めた再編整備を進めます。

## 市役所改革

やる気のある職員がより一層、力を発揮することができる環境を整えると共に、庁内の意識改革を実行します。

- 各種手当の見直し、職員定数の最適化、機関の民営化の推進などにより、トータルな人件費の圧縮に努めます。
- 市民の目線に立って仕事ができる職員を育成します。
- 積極的にチャレンジし、結果を出す職員は、責任あるポストに登用します。
- 即戦力になる専門家や職務経験のある外部人材に登用します。

## 情報公開

- オープンデータ、ビックデータを活用できる仕組みをつくり、徹底した情報公開を実現します。

## 対話

対話を重ねることにより、信頼関係を構築していきます。

- 市長も参加する対話集会を各地域で開催します。